

知肢併置特別支援学校における 要医療的ケア児童生徒の通学課題聞き取り調査結果（まとめ）

H25.2 特別支援教育室

1 これまでの経緯

スクールバスの移動中の医療的ケアについては、仮に看護師が添乗しても危険性が高い。また、バスを停車して行為を行う必要があるが、大型バスを停車させることで他の車の往来にも影響を与えると同時に、定時運行が不可能となる。さらに、障害の異なる児童生徒も同乗しており、医療的ケアの安全確保の課題もある。このようなことから通学中に医療的ケアが必要となる子どもについては、保護者による送迎としている。

2 調査の目的

医療的ケアの子どもたちの送迎を行っている保護者への聞き取りを実施することにより、その実態を明らかにし、今後の検討資料とする。

3 聞き取り対象と実施日

(1) 聞き取り対象

平成24年7月、スクールバスを配備する知肢併置8校に在籍する医療的ケアを必要とする児童生徒について、担任を中心に書面により状況を把握した（事前調査）。

この結果、医療的ケアを必要とする児童生徒は県立特別支援学校全体で117人であるが、知肢併置特別支援学校8校の通学状況調べでは、学校において日常的に医療的ケアが必要な児童生徒は91人（訪問生7人を含む）であり、その通学状況について報告があった。

保護者の送迎による医療的ケア通学生は、48人が往復、3人が片道であった。

このうち、送迎の保護者を中心として、学校と特別支援教育室による聞き取りを希望した方、39人に対して聞き取りを実施した。

なお、スクールバス利用者、訪問教育対応者についても希望があり、調査対象とした。訪問教育対応の保護者に対しては、一部家庭訪問により実施した。

(2) 実施期間

平成24年7月10日 ～ 平成24年9月21日

< 聞き取りを行った人数 >

保護者往復送迎（48人中）	…	33人
保護者片道送迎（3人中）	…	1人
スクールバス利用（33人中）	…	2人
訪問教育対応等（7人中）	…	3人

計 … 39人

< 学校毎の聞き取り内訳 >

養護学校	事前調査				
	計	往復	片道	スクールバス	訪問等
北大津	12	3		6	3
長浜	15	9	1	5	
草津	19	9		6	4
野洲	18	8	1	9	
三雲	12	8		4	
新旭	2	1		1	
八日市	5	3		2	
甲良	8	7	1		
計	91	48	3	33	7



実施日	聞き取り調査				
	計	往復	片道	スクールバス	訪問等
7/10, 25	4	3			1
7/12	6	5		1	
7/18, 26	7	5			2
7/10, 9/18, 20	9	7	1	1	
7/18, 9/21	6	6			
実施希望無し	-	-	-	-	-
7/20	3	3			
7/12	4	4			
計	39	33	1	2	3

4 聞き取り内容および方法

当該校の管理職と特別支援教育室員が2人1組となり、以下の事項を中心に聞き取りを行った。

- ・ 送迎中の医療的ケアの内容および頻度
- ・ 送迎中の医療的ケアの実施場所 等
- ・ 送迎中の医療的ケアの実施上、困っていること
- ・ 送迎に関する課題、要望
- ・ その他

5 保護者送迎の実施状況（聞き取り39人）

- (1) 送迎を担っている者
毎日の送迎は、母親が担っており、家族が同乗したり、代わって送迎することはまれである。
- (2) 送迎の距離と時間(いずれも片道)
自宅から学校までの距離は3kmから28kmで、平均10.1kmであった。
送迎時間は5分から40分で、平均21.5分であった。
- (3) 児童生徒の欠席状況
欠席の状況は年間3日から152日と児童生徒の健康状態により様々であるが、平均52.7日であった。そのうち、保護者の理由による欠席は平均10.3日であった。

6 保護者からの主な意見

- (1) 体調不良時等に送迎を代わってほしい。〈5〉
 - ・ 保護者の体調不良や兄弟の学校行事などで送迎が困難なときに、送迎を代わってもらえると有り難い。
- (2) 夜間の吸引もあり、慢性的な寝不足状態であったり、体力的に負担である。〈15〉
- (3) 毎日の通学でなくてもよい。朝ではなく、帰りや週1回ないし月1回でもお願いしたい。〈16〉
 - ・ 朝は保護者が送っていき、教員に子どもの状態を直接伝える必要があると思っている。
- (4) 現行の大型バスの利用は困難である。〈21〉
 - ・ 乗車時間が長くなると子どもが体力的に耐えられない。
 - ・ 感染症の危険があり、多人数のバスの中は不安である。
 - ・ バス停で乗降するより、直接学校に送迎した方が負担が少ない。
 - ・ いろいろな子どもとバスに乗ったとき、医ケアの子どもをきちんとケアできるか不安である。
 - ・ 朝の経管栄養などのケアのため、登校の定時運行のバス乗車にあわせることは困難である。

7 今後に向けて

聞き取りの結果から、保護者は日常的な介助や医療的ケアに加えて、通学の送迎も行っており、身体的疲労や精神的負担が大きいことが明らかとなった。

今後、通学支援の実施にあたっては、看護師や車両の確保、移動中の安全確保、費用負担など多くの解決しなければならない問題がある。

このため、実現に向けた実務上の課題や現行の制度上の課題の整理を行い、支援の実施に向けた制度設計等について研究を行っていく必要がある。